



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **2001229276 A**

(43) Date of publication of application: **24.08.01**

(51) Int. Cl. **G06F 17/60**

(21) Application number: **2000037280**

(71) Applicant: **SANYO ELECTRIC CO LTD**

(22) Date of filing: **15.02.00**

(72) Inventor: **HIRANUMA YOSHINAO**

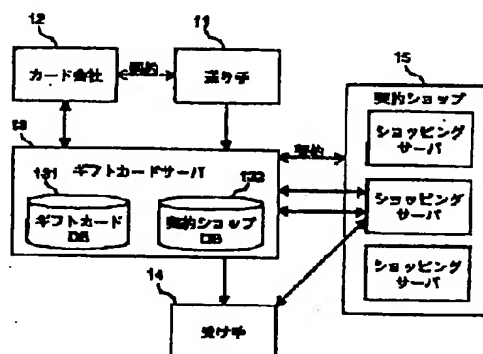
(54) **SYSTEM, METHOD AND DEVICE FOR
PROCESSING GIFT DATA**

COPYRIGHT: (C)2001,JPO

(57) Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To realize transmission, receiving and use of a gift card on a computer network.

SOLUTION: Information on a receiver and a gift amount are transmitted from a sending side terminal 11 to a gift card server 13. The gift card server 13 inquires of the receiver whether a gift card is approved or not. When it is approved, ID is given to the gift card and a receiving side terminal 14 is informed of it. The receiving side terminal 14 accesses the contract shop 15 of the gift card by using given ID and purchase a desired commodity. The contract shop 15 requests the gift card server 13 to pay the cost of the purchased commodity. The gift card server 13 requests a credit company 12 that a sending side contracts to pay the cost.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-229276
(P2001-229276A)

(43) 公開日 平成13年8月24日 (2001.8.24)

(51) Int.Cl.⁷
G 0 6 F 17/60

識別記号
Z E C

F I
G 0 6 F 15/21

テーマコード* (参考)
Z E C Z 5 B 0 4 9

審査請求 未請求 請求項の数30 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2000-37280 (P2000-37280)

(22) 出願日 平成12年2月15日 (2000.2.15)

(71) 出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(72) 発明者 平沼 義直

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内

(74) 代理人 100075258

弁理士 吉田 研二 (外2名)

Fターム(参考) 5B049 AA00 BB11 CC03 CC31 CC39

EE02 EE23 EE25 FF01 FF07

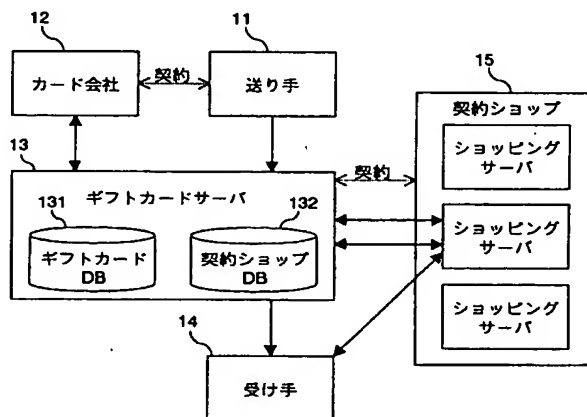
GG02 GG04

(54) 【発明の名称】 ギフトデータ処理システム及び方法並びに装置

(57) 【要約】

【課題】 コンピュータネットワーク上でギフトカードの送受及び利用を実現する。

【解決手段】 送り手側端末11からギフトカードサーバ13に対して、受け手やギフト金額の情報を送信する。ギフトカードサーバ13は、受け手に対してギフトカードを承認するか否かを問い合わせ、承認された場合にギフトカードにIDを付与して受けて側端末14に通知する。受け手側端末14は付与されたIDを用いてギフトカードの契約ショップ15にアクセスし、所望の商品を購入する。契約ショップ15は購入商品を代金をギフトカードサーバ13に対して行い、ギフトカードサーバ13は送り手の契約するクレジット会社12に対して請求する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 コンピュータネットワークを用いてギフトデータを処理するシステムであって、

前記コンピュータネットワークには、

前記ギフトデータを送る第 1 コンピュータと、

前記ギフトデータを受け取る第 2 コンピュータと、

前記ギフトデータを処理する第 3 コンピュータと、

前記ギフトデータに基づいて購入できる商品あるいはサービスを提供する第 4 コンピュータと、

が接続され、

前記第 1 コンピュータは、前記ギフトデータとして送り手情報、受け手情報及びギフト金額情報を前記第 3 コンピュータに送信する手段を有し、

前記第 3 コンピュータは、前記受け手情報に基づいて前記送り手情報及びギフト金額情報並びに前記ギフトデータの ID を前記第 2 コンピュータに送信する手段を有し、

前記第 2 コンピュータは、前記ギフトデータの ID 及び所望の商品あるいはサービスの購入要求を前記第 4 コンピュータに送信する手段を有することを特徴とするギフトデータ処理システム。

【請求項 2】 請求項 1 記載のシステムにおいて、

前記第 3 コンピュータは、

前記第 1 コンピュータから前記ギフトデータを受信した場合に前記ギフトデータを記憶する第 1 記憶手段と、

前記受け手情報に基づいて前記第 2 コンピュータに通知する手段と、

前記第 2 コンピュータからの前記通知に対する返信が前記ギフトデータの承認である場合には前記ギフトデータと前記 ID を関連付けて記憶する第 2 記憶手段と、

を有し、前記第 2 記憶手段に記憶された前記 ID を前記第 2 コンピュータに送信することを特徴とするギフトデータ処理システム。

【請求項 3】 請求項 2 記載のシステムにおいて、

前記第 3 コンピュータは、前記第 2 コンピュータからの前記通知に対する返信が前記ギフトデータの非承認である場合には前記第 1 記憶手段から前記ギフトデータを削除する手段と、

を有し、前記ギフトデータの非承認である場合には前記第 2 コンピュータへの前記 ID の送信を禁止することを特徴とするギフトデータ処理システム。

【請求項 4】 請求項 1 記載のシステムにおいて、

前記第 3 コンピュータは、前記第 2 コンピュータに対して、さらに前記ギフトデータが利用できる第 4 コンピュータを特定する情報を送信することを特徴とするギフトデータ処理システム。

【請求項 5】 請求項 4 記載のシステムにおいて、

前記第 1 コンピュータは、前記第 3 コンピュータに対して、さらに前記ギフトデータの種類情報を送信し、

前記第 3 コンピュータは、前記第 2 コンピュータに対し

て、前記ギフトデータのの前記種類情報に基づいて前記第 4 コンピュータを特定する情報を送信することを特徴とするギフトデータ処理システム。

【請求項 6】 請求項 1 記載のシステムにおいて、

前記第 4 コンピュータは、前記第 2 コンピュータから前記購入要求を受信した場合に前記第 3 コンピュータに前記 ID を送信する手段を有し、

前記第 3 コンピュータは、前記第 4 コンピュータから受信した ID を認証してその結果を前記第 4 コンピュータに送信する手段を有することを特徴とするギフトデータ処理システム。

【請求項 7】 請求項 2 記載のシステムにおいて、

前記第 4 コンピュータは、前記第 2 コンピュータから前記購入要求を受信した場合に前記第 3 コンピュータに前記購入要求情報を送信し、

前記第 3 コンピュータは、前記第 2 コンピュータから受信した前記購入要求に基づいて前記第 2 記憶手段に記憶された前記ギフトデータを更新する手段を有することを特徴とするギフトデータ処理システム。

【請求項 8】 請求項 7 記載のシステムにおいて、

前記第 3 コンピュータは、さらに更新後のギフトデータを前記第 2 コンピュータに通知することを特徴とするギフトデータ処理システム。

【請求項 9】 請求項 7 記載のシステムにおいて、

前記第 3 コンピュータは、前記ギフトデータのギフト金額及び前記 ID を更新することを特徴とするギフトデータ処理システム。

【請求項 10】 請求項 7 記載のシステムにおいて、

前記第 3 コンピュータは、前記第 2 コンピュータから受信した前記購入要求に基づいて所定の決済処理を実行することを特徴とするギフトデータ処理システム。

【請求項 11】 請求項 1 記載のシステムにおいて、

前記第 3 コンピュータは、さらに前記ギフトデータの有効期限情報を前記第 2 コンピュータに送信することを特徴とするギフトデータ処理システム。

【請求項 12】 コンピュータネットワークを用いてギフトデータを処理する方法であって、

前記コンピュータネットワークに接続された端末から前記ギフトデータとして送り手情報、受け手情報及びギフト金額情報を供給し、

前記受け手情報で特定される端末に対して前記送り手情報及びギフト金額情報並びに前記ギフトデータに対して付与された ID を供給し、

前記受け手情報で特定される端末から前記 ID 及び購入要求を前記コンピュータネットワークに接続された商品またはサービス提供システムに対して出力する、ことを特徴とするギフトデータ処理方法。

【請求項 13】 請求項 12 記載の方法において、

前記 ID は、前記ギフトデータを前記受け手情報で特定される受け手が承認した後に付与されることを特徴とす

るギフトデータ処理方法。

【請求項 14】 請求項 12 記載の方法において、前記コンピュータネットワークに接続された端末から供給された前記ギフトデータは仮登録され、前記受け手情報で特定される端末に対して前記ギフトデータの承認／非承認を確認する通知を供給し、前記通知に対して承認が返信された場合に前記仮登録が有効とされて前記 ID が供給され、非承認が通知された場合に前記仮登録が無効とされて前記 ID は供給されないことを特徴とするギフトデータ処理方法。

【請求項 15】 請求項 12 記載の方法において、前記受け手情報で特定される端末に対して前記 ID を供給するとともに、前記ギフトデータで購入できる商品またはサービスを提供するシステムを特定する情報を供給することを特徴とするギフトデータ処理方法。

【請求項 16】 請求項 15 記載の方法において、前記ギフトデータで購入できる商品またはサービスを提供するシステムは、前記ギフトデータに付与された種類情報に基づいて選択されることを特徴とするギフトデータ処理方法。

【請求項 17】 請求項 12 記載の方法において、前記商品またはサービス提供システムに対して出力された前記 ID は認証され、認証後に前記購入要求が受け付けられることを特徴とするギフトデータ処理方法。

【請求項 18】 請求項 12 記載の方法において、前記購入要求が出力された後に、前記購入要求に含まれる購入金額分だけ前記ギフト金額が控除されることを特徴とするギフトデータ処理方法。

【請求項 19】 請求項 18 記載の方法において、前記購入金額分だけ控除された後のギフト金額及び前記 ID と異なる新たに付与された ID を前記受け手情報で特定される端末に供給することを特徴とするギフトデータ処理方法。

【請求項 20】 請求項 12 記載の方法において、前記購入要求が出力された後に、前記送り手情報で特定される送り手に対して前記ギフト金額の決済処理を実行することを特徴とするギフトデータ処理方法。

【請求項 21】 請求項 12 記載の方法において、前記ギフトデータには、有効期限情報が付与されることを特徴とするギフトデータ処理方法。

【請求項 22】 コンピュータネットワーク上でギフトデータを処理する装置であって、前記コンピュータネットワークに接続された送り手側端末から供給された、前記ギフトデータとしての送り手情報、受け手情報及びギフト金額情報を受信する手段と、前記受け手情報に基づいて前記ギフトデータの送り手情報及びギフト金額情報並びに前記ギフトデータの ID を受け手側端末に送信する手段と、前記コンピュータネットワークに接続された商品またはサービス提供コンピュータから供給された前記 ID を認

証する手段と、

前記商品またはサービス提供コンピュータから供給された決済請求を処理する手段と、

を有することを特徴とするギフトデータ処理装置。

【請求項 23】 請求項 22 記載の装置において、前記送り手側端末から送信された前記ギフトデータを記憶する第 1 記憶手段と、前記受け手側端末に前記ギフトデータの承認／非承認を通知する手段と、

10 前記受け手側端末から承認が返信された場合に前記ギフトデータと前記 ID を関連付けて記憶する第 2 記憶手段と、

を有することを特徴とするギフトデータ処理装置。

【請求項 24】 請求項 23 記載の装置において、前記受け手側端末から非承認が返信された場合に前記第 1 記憶手段に記憶されたギフトデータを削除する手段と、

を有することを特徴とするギフトデータ処理装置。

【請求項 25】 請求項 22 記載の装置において、20 前記ギフトデータが利用できる商品またはサービス提供コンピュータの特定情報を前記受け手側端末に送信する手段と、

を有することを特徴とするギフトデータ処理装置。

【請求項 26】 請求項 22 記載の装置において、前記特定情報は前記ギフトデータに付随する種類情報に基づいて決定されることを特徴とするギフトデータ処理装置。

【請求項 27】 請求項 23 記載の装置において、前記決済請求の処理が完了した場合に、前記第 2 記憶手段に記憶されている前記ギフトデータを更新する手段と、

を有することを特徴とするギフトデータ処理装置。

【請求項 28】 請求項 27 記載の装置において、更新したギフトデータを前記受け手側端末に送信する手段と、

を有することを特徴とするギフトデータ処理装置。

【請求項 29】 請求項 27 記載の装置において、前記更新する手段は、前記ギフトデータのギフト金額及び ID を更新することを特徴とするギフトデータ処理装置。

40

【請求項 30】 請求項 22 記載の装置において、前記ギフトデータの有効期限を設定する手段と、を有することを特徴とするギフトデータ処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はギフトデータ処理システム及び方法並びに装置に関し、特にギフトカードなどのギフトデータをコンピュータネットワークを用いて送受する技術に関する。

【0002】

【従来の技術】従来のギフトカードは購入時及び利用時に送り手、受け手それぞれが店舗に出向く必要があった。

【0003】一方、近年のインターネット技術の進歩により、オンラインショッピングあるいは電子取引など実際に店舗に出向かなくてもコンピュータネットワークに接続された端末を用いて所望の商品やサービスを購入することが可能となっている。例えば、WWWサーバ上に商品データを記憶させ、Webページを顧客の端末に送信する。顧客の端末には、送信されたWebページが表示され、顧客は必要な商品を選択して購入要求をWWWサーバに送信する。WWWサーバでは、必要な決済処理を行い、要求された商品等を顧客に配送する。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来のインターネットを用いた電子商取引では、ギフトカードの概念がなく、送り手を選んだ商品を相手側に贈る、すなわち送り手が一旦商品を購入し、その商品を受け手に配送する以外に方法がなかった。

【0005】本発明は、上記従来技術の有する課題に鑑みなされたものであり、その目的は、コンピュータネットワークを用いてギフトカードなどのギフトデータを送受できるシステムや方法を提供することにある。

【0006】上記目的を達成するために、本発明は、コンピュータネットワークを用いてギフトデータを処理するシステムであって、前記コンピュータネットワークには、前記ギフトデータを送る第1コンピュータと、前記ギフトデータを受け取る第2コンピュータと、前記ギフトデータを処理する第3コンピュータと、前記ギフトデータに基づいて購入できる商品あるいはサービスを提供する第4コンピュータとが接続され、前記第1コンピュータは、前記ギフトデータとして送り手情報、受け手情報及びギフト金額情報を前記第3コンピュータに送信する手段を有し、前記第3コンピュータは、前記受け手情報に基づいて前記送り手情報及びギフト金額情報並びに前記ギフトデータのIDを前記第2コンピュータに送信する手段を有し、前記第2コンピュータは、前記ギフトデータのID及び所望の商品あるいはサービスの購入要求を前記第4コンピュータに送信する手段を有することを特徴とする。

【0007】ここで、前記第3コンピュータは、前記第1コンピュータから前記ギフトデータを受信した場合に前記ギフトデータを記憶する第1記憶手段と、前記受け手情報に基づいて前記第2コンピュータに通知する手段と、前記第2コンピュータからの前記通知に対する返信が前記ギフトデータの承認である場合には前記ギフトデータと前記IDを関連付けて記憶する第2記憶手段とを有し、前記第2記憶手段に記憶された前記IDを前記第2コンピュータに送信することが好適である。また、前記第3コンピュータは、前記第2コンピュータからの前

記通知に対する返信が前記ギフトデータの非承認である場合には前記第1記憶手段から前記ギフトデータを削除する手段とを有し、前記ギフトデータの非承認である場合には前記第2コンピュータへの前記IDの送信を禁止することが好適である。

【0008】また、前記第3コンピュータは、前記第2コンピュータに対して、さらに前記ギフトデータが利用できる第4コンピュータを特定する情報を送信することが好適である。

10 【0009】また、前記第1コンピュータは、前記第3コンピュータに対して、さらに前記ギフトデータの種類の情報を送信し、前記第3コンピュータは、前記第2コンピュータに対して、前記ギフトデータの前記種類情報に基づいて前記第4コンピュータを特定する情報を送信することが好適である。

【0010】また、前記第4コンピュータは、前記第2コンピュータから前記購入要求を受信した場合に前記第3コンピュータに前記IDを送信する手段を有し、前記第3コンピュータは、前記第4コンピュータから受信したIDを認証してその結果を前記第4コンピュータに送信する手段を有することが好適である。

【0011】また、前記第4コンピュータは、前記第2コンピュータから前記購入要求を受信した場合に前記第3コンピュータに前記購入要求情報を送信し、前記第3コンピュータは、前記第2コンピュータから受信した前記購入要求に基づいて前記第2記憶手段に記憶された前記ギフトデータを更新する手段を有することが好適である。

30 【0012】また、前記第3コンピュータは、さらに更新後のギフトデータを前記第2コンピュータに通知することが好適である。

【0013】また、前記第3コンピュータは、前記ギフトデータのギフト金額及び前記IDを更新することが好適である。

【0014】また、前記第3コンピュータは、前記第2コンピュータから受信した前記購入要求に基づいて所定の決済処理を実行することが好適である。

40 【0015】また、前記第3コンピュータは、さらに前記ギフトデータの有効期限情報を前記第2コンピュータに送信することが好適である。

【0016】また、上記目的を達成するために、本発明は、コンピュータネットワークを用いてギフトデータを処理する方法を提供する。この方法は、前記コンピュータネットワークに接続された端末から前記ギフトデータとして送り手情報、受け手情報及びギフト金額情報を供給し、前記受け手情報で特定される端末に対して前記送り手情報及びギフト金額情報並びに前記ギフトデータに対して付与されたIDを供給し、前記受け手情報で特定される端末から前記ID及び購入要求を前記コンピュータネットワークに接続された商品またはサービス提供シ

システムに対して出力することを特徴とする。

【0017】ここで、前記IDは、前記ギフトデータを前記受け手情報で特定される受け手が承認した後に付与されることが好適である。

【0018】また、前記コンピュータネットワークに接続された端末から供給された前記ギフトデータは仮登録され、前記受け手情報で特定される端末に対して前記ギフトデータの承認／非承認を確認する通知を供給し、前記通知に対して承認が返信された場合に前記仮登録が有効とされて前記IDが供給され、非承認が通知された場合に前記仮登録が無効とされて前記IDは供給されないことが好適である。

【0019】また、前記受け手情報で特定される端末に対して前記IDを供給するとともに、前記ギフトデータで購入できる商品またはサービスを提供するシステムを特定する情報を供給することが好適である。

【0020】また、前記ギフトデータで購入できる商品またはサービスを提供するシステムは、前記ギフトデータに付与された種類情報に基づいて選択されることが好適である。

【0021】また、前記商品またはサービス提供システムに対して出力された前記IDは認証され、認証後に前記購入要求が受け付けられることが好適である。

【0022】また、前記購入要求が出力された後に、前記購入要求に含まれる購入金額分だけ前記ギフト金額が控除されることが好適である。

【0023】また、前記購入金額分だけ控除された後のギフト金額及び前記IDと異なる新たに付与されたIDを前記受け手情報で特定される端末に供給することが好適である。

【0024】また、前記購入要求が出力された後に、前記送り手情報で特定される送り手に対して前記ギフト金額の決済処理を実行することが好適である。

【0025】また、前記ギフトデータには、有効期限情報が付与されることが好適である。

【0026】また、上記目的を達成するために、本発明は、コンピュータネットワーク上でギフトデータを処理する装置を提供する。この装置は、前記コンピュータネットワークに接続された送り手側端末から供給された、前記ギフトデータとしての送り手情報、受け手情報及びギフト金額情報を受信する手段と、前記受け手情報に基づいて前記ギフトデータの送り手情報及びギフト金額情報並びに前記ギフトデータのIDを受け手側端末に送信する手段と、前記コンピュータネットワークに接続された商品またはサービス提供コンピュータから供給された前記IDを認証する手段と、前記商品またはサービス提供コンピュータから供給された決済請求を処理する手段とを有することを特徴とする。

【0027】ここで、前記送り手側端末から送信された前記ギフトデータを記憶する第1記憶手段と、前記受け

手側端末に前記ギフトデータの承認／非承認を通知する手段と、前記受け手側端末から承認が返信された場合に前記ギフトデータと前記IDを関連付けて記憶する第2記憶手段とを有することが好適である。

【0028】また、前記受け手側端末から非承認が返信された場合に前記第1記憶手段に記憶されたギフトデータを削除する手段とを有することが好適である。

【0029】また、前記ギフトデータが利用できる商品またはサービス提供コンピュータの特定情報を前記受け手側端末に送信する手段とを有することが好適である。

【0030】また、前記特定情報は前記ギフトデータに付随する種類情報に基づいて決定されることが好適である。

【0031】また、前記決済請求の処理が完了した場合には、前記第2記憶手段に記憶されている前記ギフトデータを更新する手段とを有することが好適である。

【0032】また、前記装置は、更新したギフトデータを前記受け手側端末に送信する手段とを有することが好適である。

【0033】また、前記更新する手段は、前記ギフトデータのギフト金額及びIDを更新することが好適である。

【0034】また、前記装置は、前記ギフトデータの有効期限を設定する手段とを有することが好適である。

【0035】

【発明の実施の形態】以下、図面に基づき本発明の実施形態について、ギフトデータとしてギフトカードを例にとり説明する。

【0036】図1には、本実施形態におけるギフトカード処理システムのシステム構成図が示されている。ギフトカードの送り手側の端末11よりギフトカードサーバ13にアクセスし、受け手側の端末14にギフトカードを贈るための登録処理を行う。

【0037】送り手側端末11には、キーボードなどの入力装置、ディスプレイなどの出力装置及びネットワークと接続するための通信装置が設けられる。端末11は、パーソナルコンピュータやPDA、あるいは携帯電話で構成することもできる。

【0038】カード会社12は、送り手とクレジットカードの利用契約をしており、ギフトカードサーバ13からの代金請求に対して送り手の支払いを代行する。

【0039】ギフトカードサーバ13は、送り手側端末11からのギフトカードの受付、受け手側端末14への通知、ギフトカードの契約ショップ15からの認証及び代金請求に対する支払い、カード会社12への代金請求といった一連の決済処理を実行する。ギフトカードサーバ13はこれらの処理を実行するためのギフトカードデータベース(DB)131と契約ショップデータベース(DB)132を有する。ギフトカードサーバ13は、サーバクライアントシステムにおけるサーバコンピュー

タとして機能する。通信装置や記憶装置を含むサーバコンピュータの構成は周知であるので、その詳細は省略する。

【0040】図2には、ギフトカードDBに記憶されるデータのフォーマットが示されている。ギフトカードDB131は1レコードにつき1件のギフトカード情報を格納するデータベースであり、送り手側端末11からの登録内容が各フィールドに初期値として格納される。また、送り手側端末11からの登録内容の他に、購入した商品、金額、ショッピングサイトなどの購入履歴フィールドを持つ。このレコードは受け手側端末14がギフトカードを利用することにより、順次更新される。

【0041】図2において、ID(番号)フィールドはレコードの番号であり、レコード毎に付与されるものである。受け手が送り手のギフトカードを承認した後にこのギフトカードに付与されるID、すなわちギフトカードが有効であることを意味するID(あるいはパスワード)とは異なる点に注意されたい。送り手フィールドには送り手の氏名や電子メールアドレスなどが格納される。受け手フィールドには受け手の氏名や電子メールアドレスなどが格納される。ギフトカードフィールドには、ギフト金額やギフトカードの種類、受け手が承認した場合に付与されるID(あるいはパスワード)が格納される、受付日時にはギフトカードを受け付けた日が格納される。この受付日時は、ギフトカードの有効期限を設定する際の基準ともなる。利用履歴フィールドには受け手がこのギフトカードを契約ショップで利用した日時や利用店舗名、利用合計額や購入商品などが格納される。図2に示されたレコードは、送り手から供給されたデータに基づいて仮登録された後に受け手の承認をトリガとして作成され記憶される。

【0042】図3には、契約ショップDBに記憶されるデータのフォーマットが示されている。契約ショップDB132は1レコードにつき1件の電子仮想店舗の情報を格納するデータベースであり、各レコードは、店舗ID、店舗名、URL、取扱商品、コメント、利用回数等のフィールドから成る。URLやコメントは、ギフトカードサーバ13から受け手側端末14にギフトカードを利用できるショップを特定するために利用される。すなわち、ギフトカードサーバ13から受け手側端末14に、ギフトカードのIDとともに、利用できるショップのURLを送信することで、受け手側端末14では、ギフトカードを利用できるWebページにアクセスすることが可能となる。

【0043】再び図1に戻り、ギフトカードの受け手側端末14は、受け取ったギフトカードを利用して契約ショップ15にアクセスし、所望の商品を購入する。受け手側端末14も、送り手側端末11と同様に、ネットワークを接続する通信機能を有するパーソナルコンピュータやPDA、あるいは携帯電話で構成することができ

る。契約ショップ15はギフトカードサーバ13とギフトカードを利用したショッピングをできるように事前に契約を行ったショッピングサーバ群で、それぞれのショッピングサーバは、受け手側端末14のギフトカードによる商品購入の受付、ギフトカードサーバ13へのギフトカード認証依頼、受け手への商品納入、ギフトカードサーバ13への代金請求といった一連の処理を行う。

【0044】図4には、ギフトカード処理の流れを時系列に表したタイミングチャートが示されている。処理は大別して、登録フェーズ、通知フェーズ、利用フェーズ、精算(決済)フェーズに分けることができる。S1の登録ステップでは、ギフトカードの送り手端末11よりギフトカードサーバ13にアクセスし、ギフトカードの登録処理を行う。

【0045】ギフトカードサーバ13にアクセスした際、送り手側端末11に表示される登録画面の一例が図5に示されている。差出人ブロックにある、氏名、E-mail(電子メール)、クレジットカード番号、有効期限の各フィールドには、送り手の氏名、送り手のE-mailアドレス、ギフトカードの利用代金を引き落とすクレジットカードの番号、クレジットカードの有効期限をそれぞれ入力する。

【0046】受取人ブロックにある、氏名、E-mailの各フィールドには、受け手の氏名、受け手のE-mailアドレスをそれぞれ入力する。ギフトカードブロックには、金額、種類、メッセージの各フィールドがある。金額フィールドには、ギフトカードの金額を入力する。種類フィールドには、ギフトカードを贈る目的を入力するようになっており、例えば、入学祝、就職祝、結婚祝、出産祝等のラジオボタン群から一つを選択する。該当する目的がない場合はその他をチェックし、隣のテキストボックスに自身で記入する。メッセージフィールドには送り手宛にギフトカードとともに添えるメッセージを入力するようになっており、例えば、なし、定型、カスタム等のラジオボタン群から一つを選択する。なしの場合は、メッセージを添えない。定型の場合は、ギフトカードを贈る時季に適した時候の挨拶文、前記種類フィールドで選択した目的に適した文章などを合成したメッセージをサーバ側において自動的に生成する。カスタムの場合は、送り手自身がテキストボックスに文章を作成する。前記各フィールドをすべて入力後、登録ボタンを押下すると、ギフトカードサーバへ入力データが送信される。

【0047】次に、S2の確認ステップでは、S1で入力されたクレジットカード情報の有効性を確認し、有効と認められれば、その他の入力データに対し記入間違いがないかを確認する画面(図示しない)を送り手の端末に送信する。この時点で送り手が記入間違いに気づいた場合、登録ステップS1に戻る。S3の了解ステップでは、送り手が記入間違いのないことを確認し、図示しな

い確認画面上にある了解ボタンを押下すると、ギフトカードサーバ13へ了解メッセージが送信される。

【0048】S4の仮登録ステップでは、S1～S3の一連の処理で受け付けたギフトカード情報をギフトカードサーバ13内のギフトカードDB131へ仮登録する。仮登録するのは、この段階では受け手がギフトカードの受け取りを認めるか否か不明な未確定の段階にあるからである。

【0049】S5の通知ステップでは、ギフトカードサーバ13から受け手側端末14へギフトカードの進呈があったことの通知を電子メールにて行う。図5の受取人E-mailフィールドに入力されたE-mailアドレス宛に、図6に示すような文面のメッセージを送信する。このメッセージには、「ご入学祝」などの表書き、送り手から受け手にギフトカードの進呈があったことの通知、送り手からのメッセージ、受け手に受け取るか否かを決定してもらう方法などが含まれる。

【0050】S6の受取り承諾・拒絶ステップでは、S5の通知に対して、受け手がギフトカードを受け取るか否かを判断し、ギフトカードサーバ13へ報告する。図6の通知メッセージの例では、図6の電子メールに対して返信することで受取り承諾（承認）とみなし、一定期間（例えば1週間）返信がない場合は拒絶とみなす。

【0051】S7の受取り・拒絶通知ステップでは、受け手がギフトカードを受け取ったかあるいは拒絶したかを電子メールにて送り手側端末11に通知する。もちろん、この処理を省略することも可能である。そして、受け手がギフトカードの受取りを拒絶（非承認）した場合、ギフトカードサーバはS4で仮登録したギフトカード情報を削除し、一連の処理を終了する。これにより、誤った受け手に対してギフトカードが送付されてしまう事態を確実に防止できる。

【0052】一方、受け手がギフトカードを承認した場合には、次にS8のDBレコード作成ステップにおいて、S4で仮登録したギフトカード情報を正式にギフトカードDB131の新規レコードへ登録する。本登録の際、ギフトカードサーバ13は受け手本人がギフトカードを利用することを認証するためのIDを生成し、該当するフィールド、すなわちギフトカードフィールドへ格納する。このIDが付与されて始めてギフトカードのレコードは有効となる。なお、仮登録と本登録は別のレコードで構成することもでき、同一のレコードで構成することも可能である。同一のレコードで構成する場合、例えば仮登録のレコードにはフラグを設定しておき、受け手がギフトカードを承認してギフトカードのIDが付与された時点で仮登録のフラグを消去することが考えられる。

【0053】S9のID発行ステップでは、ギフトカードサーバがS8で生成したIDを受け手側端末13へ通知する。具体的には、受け手のE-mailアドレス宛

に図7に示すような文面のメッセージを送信する。このメッセージにはギフトカードのIDの他に、ギフトカードが利用できるショッピングサイトの情報、すなわちURLやショップの簡単な紹介文などが含まれる。このショッピングサイト情報を列挙する際には、S1で指定したギフトカードの種類により、関連する商品を扱うショッピングサイトを優先的に記載することが好適である。例えば、ギフトカードが出産祝として贈られた場合、ギフトカードサーバはサーバ内の契約ショップDB132の取扱商品フィールドから「ベビー用品」、「おもちゃ」等のキーワードを検索し、ヒットしたショッピングサイトの店舗名、URL、コメント等を優先的に記載する。また、ギフトカードが入学祝いとして送られた場合には、文房具や家電、本を扱うショップを優先的に記載する等である。これにより、送り手の意思を確実に反映させることが可能となる。なお、契約ショップDB132の利用回数フィールドから、利用回数の高いショッピングサイトを検出し、そのサイトの人気が高いと判断して優先的に記載するようにしてもよい。

【0054】S10のID入力ステップでは、ギフトカードの受け手が端末14を用いてギフトカードサーバ13から供給されたURLを用いてショッピングサーバ15にアクセスし、ギフトカード利用による商品購入の手続きを取る。ギフトカードサーバと契約したショッピングサーバ15は、通常の消費者自身のクレジットカードによる支払方法とギフトカードによる支払方法を選択するための画面を用意する。図8にこの画面の一例が示されている。ギフトカードによる支払いとクレジットカードによる支払いを選択するボタンが表示される。受け手はその画面上でギフトカードによる支払方法を選択し、S9でギフトカードサーバより通知されたIDを入力する。

【0055】S11の認証ステップでは、S10で入力されたIDが有効であるかをギフトカードサーバ13に問い合わせる。ギフトカードサーバ13は送られたIDとサーバ内のギフトカードDBを照合し、有効か無効かを判定する。S12の承認・否認ステップでは、S11で送られたIDをギフトカードサーバで認証した結果をショッピングサーバへ返送する。また、承認する場合は、ギフトカードの利用可能額も同時に送信する。S13の承認・否認ステップでは、S12の結果を受け、受け手へ適切な画面を送信する。承認されればギフトカードによる商品購入画面を送信し、否認されれば認証失敗の画面を送信する。商品購入画面では、ギフトカードの金額も同時に表示することが好適である。

【0056】S14の購入ステップでは、図示しない商品購入画面において受け手が所望する商品を選択し、購入決定を示すボタンを押下する。ショッピングサーバ15は受け手の購入する商品の金額合計とS12で取得したギフトカード利用可能額を比較し、利用可能額を超え

た場合は受け手の端末画面にその旨を表示し再度商品の選択をやり直してもらう。あるいは、ショッピングサーバ15は、ギフトカード利用可能額を超える金額の商品を選択した場合に差額を受け手のクレジットカードで支払えるようなシステムとしてもよい。さらに受け手は商品を送る先の住所等の情報をショッピングサーバ15へ送信する。

【0057】S15の納品ステップでは、S14で受け手が購入した商品を指定の場所へ配送する。S16の代金請求ステップでは、S14で受け手が購入した商品の金額をギフトカードサーバ13へ請求する。ギフトカードサーバ13へ送信するデータは、利用されたギフトカードのID、購入した商品、数量および金額等が含まれる。S17の代金請求ステップでは、S16のショッピングサーバ15からの代金請求に対して、ギフトカードのIDの照合によりギフトカードの送り手を特定し、送り手が指定したクレジットカード会社に対して代金の請求を行う。S18及びS19の支払ステップにより、商品代金が送り手のクレジットカード会社からショッピングサーバに支払われる。

【0058】以上のようにして決済処理が完了した後、S20のDBレコード更新ステップでは、受け手が利用したギフトカード情報を更新する。S16でショッピングサイトから送られた商品購入情報を元にギフトカードDB131の該当するギフトカードレコードの購入履歴フィールド、利用可能額フィールド等を更新する。また、契約ショップDB132の該当するショッピングサイトの利用回数フィールドを1増加する。さらに、セキュリティ向上のため、ギフトカードのIDを再生成して更新することが好適である。

【0059】S21の利用・残高通知ステップでは、受け手にギフトカードの利用明細とギフトカードの利用残高を電子メールにて通知する。ギフトカードDBから受け手E-mailアドレスを取得し、そのアドレス宛に図9に示すような文面のメッセージを送信する。このメッセージには、受け手が利用したショッピングサイト、購入した商品の品名、数量、単価、金額などの明細、ギフトカードの残高、ギフトカードIDなどが含まれる。このギフトカードIDは、S20の更新ステップで更新された新たなIDである。受け手は、この新たなIDを用いて残金の範囲内で所望の商品またはサービスを購入することができる。

【0060】S22の利用通知ステップでは、S21で受け手に送信した利用明細の内容を送り手に対しても電子メールにて通知する。ギフトカードDBから送り手E-mailアドレスを取得し、そのアドレス宛にメッセージを送信する。このメッセージには、受け手の名前、受け手が購入した商品の品名、数量、単価、金額などの明細、ギフトカードの残高などが含まれる。受け手のプライバシーを保護するために、購入商品の明細を記載し

ないようにしたり、送り手への利用通知自体を行わないようなシステムとしてもよい。

【0061】S23の期限切れ通知ステップでは、ギフトカードに予め設定しておいた有効期限（例えば1年）に近くなった（例えば1週間前）ギフトカードをギフトカードDBより抽出し、利用可能額の残っているギフトカードの所有者に対し電子メールにて通知する。有効期限は、例えば図2に示されたレコードに有効期限フィールドを設定し、本登録時にそのフィールドに期限を格納するようにしてもよい。ギフトカードDBから受け手E-mailアドレスを取得し、そのアドレス宛にメッセージを送信する。このメッセージには、有効期限の日付、ショッピングサーバの一覧、ギフトカードIDなどが含まれる。

【0062】S24のDBレコード削除ステップでは、予め設定しておいた有効期限を過ぎたギフトカード情報をギフトカードDBから削除する。これにより、不要なギフトカードのレコードによりデータベースの容量が増大してしまうことを防止できる。また、有効期限を設定することで、送り手の支払い時期が不必要に長期化してしまう事態も防止できる。

【0063】以上、本発明の実施形態について説明したが、本発明の技術的思想の範囲内で種々の変更が可能である。例えば、実施形態ではギフトカードサーバ13とショッピングサーバ15とは別個としたが、ギフトカードサーバ13内にショッピングサーバ15を組み込むことも可能である。また、送り手側端末11からギフトカードの有効期限を解除あるいは当初から設定しないようにすることも可能である。また、本実施形態ではギフトデータとしてギフトカードを例にとり説明したが、送り手側から受け手側に対して贈与する有価データであれば、任意の形式に適用することができる。

【0064】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、インターネットなどのコンピュータネットワークを用いてギフトデータの進呈、および利用が可能となる。また、ギフトデータの種類（入学祝、出産祝など）に応じて、ギフトデータの受け手に最適な仮想店舗を提供することもできる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 実施形態のシステム構成図である。

【図2】 図1におけるギフトカードデータベースのレコード説明図である。

【図3】 図1における契約ショップデータベースのレコード説明図である。

【図4】 実施形態の処理を示すタイミングチャートである。

【図5】 送り手側端末から送信するギフトデータの画面説明図である。

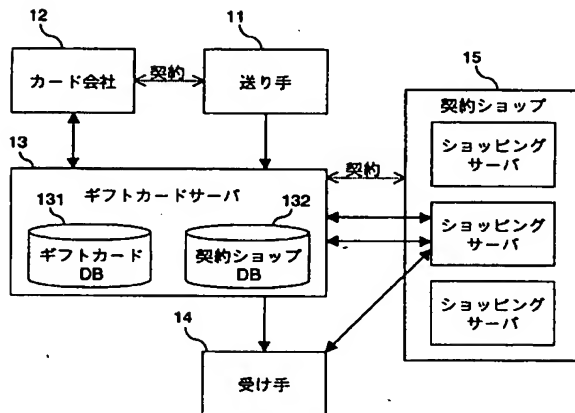
【図6】 受け手側端末に通知する画面説明図である。

【図 7】 受け手側端末に供給するギフトデータの説明図である。

【図 8】 契約ショップにアクセスした場合の画面説明図である。

【図 9】 ギフトデータを更新した後に通知される画面

【図 1】



【図 3】

店舗 ID	店舗名	URL	取扱商品	コメント	利用回数

【図 5】

送出人:
 氏名: 奥利 泰三
 E-mail: okuri@present.for.you.com
 クレジットカード番号: 1234-5678-9012-3456
 有効期限: 2000 年 12 月

受取人:
 氏名: 真井 益代
 E-mail: moral@thank.you.com

ギフトカード:
 金額: 10000 円
 種類: ☒ 入学 ☐ 就職 ☐ 結婚 ☐ 出産 ☐ その他
 メッセージ: ☐ なし ☐ 定型 ☒ カスタム (下に記入)
 益代ちゃん、大学合格おめでとう。
 これからも夢に向かってがんばってください。

登録

説明図である。

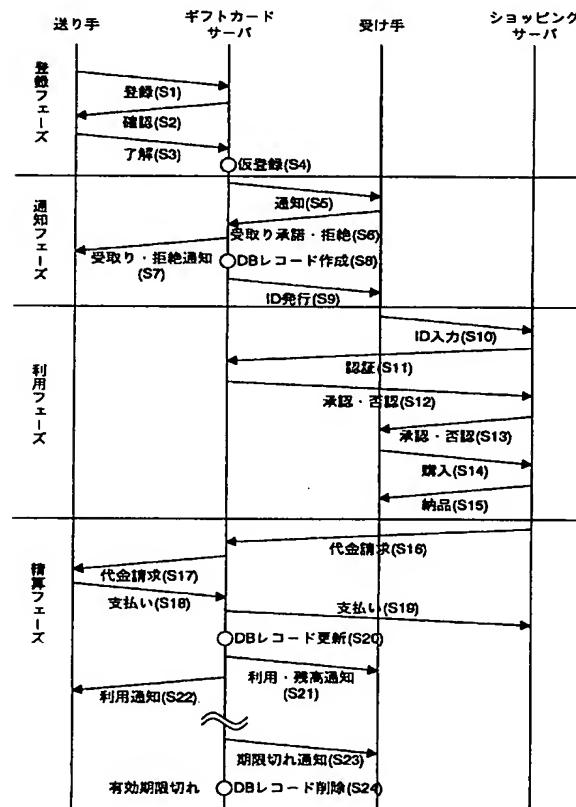
【符号の説明】

11 送り手側端末、12 カード会社、13 ギフトカードサーバ、14 受け手側端末、15 契約ショップ (ショッピングサーバ)。

【図 2】

ID(番号)	送り手	受け手	ギフトカード	受付日時	利用履歴

【図 4】



【図 6】

件 名 : 【ご入学祝】奥利泰三
 送信者 : パーチャルギフトカード <admin@virtualgiftcard.com>
 宛 先 : 真井益代様 <morai@thank.you.com>

奥利泰三様からあなた様へ10000円分のパーチャルギフトカードの送呈がありました。以下に奥利泰三様からのメッセージを掲載します。

メッセージ:
 益代ちゃん、大学合格おめでとう。
 これからも夢に向かってがんばってください。

パーチャルギフトカードを受け取られる場合は、このメールに返信してください。折り返し、ご利用方法のお知らせをお送りします。
 このメールの内容が身に覚えのないものである場合は、このままメールを破棄してください。

【図 7】

件 名 : パーチャルギフトカードIDとご利用方法のお知らせ
 送信者 : パーチャルギフトカード <admin@virtualgiftcard.com>
 宛 先 : 真井益代様 <morai@thank.you.com>

ご利用方法:
 パーチャルギフトカードは、以下のショッピングサイトでご利用いただけます。

サイト名	URL	お店からひとこと
〇〇〇	http://xxxx.xxxx.xxxx/	これから一人暮らしを始める方に
△△△△	http://yyy.yyyy.yyy/	あらゆる分野の本が手に入ります

このパーチャルギフトカードをショッピングサイトで利用される場合、次のIDが必要です。
 XXXXXXXXXX

【図 8】

支払方法

☒ ギフトカード

☐ クレジットカード

OK

【図 9】

件 名 : パーチャルギフトカードご利用明細
 送信者 : パーチャルギフトカード <admin@virtualgiftcard.com>
 宛 先 : 真井益代様 <morai@thank.you.com>

ご利用になったショッピングサイト:
 〇〇〇 http://xxxx.xxxx.xxxx/

ご利用明細:

品名	数量	単価	金額
△△△△	1	8,000	8,000
残高			2,000

このパーチャルギフトカードをショッピングサイトで利用される場合、次のIDが必要です。
 XXXXXXXXXX